

令和7年10月28日
農推第1343-7号

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

目次	ページ
特に発生に注意(11月)【ねぎ:ネギアザミウマ(えそ条斑病)、 きゅうり:コナジラミ類(タバココナジラミ:退緑黄化病)、 野菜類:シロイチモジヨトウ】	1~2
病害虫の発生予報(11月)	3
野菜【きゅうり、あぶらな科野菜、野菜類】	4~7
果樹【果樹類】	7
その他注意すべき病害虫【トマトキバガ】	8

特に発生に注意(11月)①

ねぎ:ネギアザミウマ(えそ条斑病)



成虫



えそ条斑病の被害葉

特徴

- ◆ ネギアザミウマは、高温で少雨の時に多発しやすい。
- ◆ ネギアザミウマは葉を吸汁し、加害部は白く色が抜ける。
- ◆ えそ条斑病は、ネギアザミウマが媒介するIYSV(アイリスイエロースポットウイルス)によるウイルス病である。はじめ、葉身に紡錘形のえそ条斑を呈し、進行すると病斑が拡大して融合し、葉が萎凋・枯死することがある。

防除のポイント

- ◆ ウイルス病に対する治療方法はないので、ウイルスを媒介するネギアザミウマの防除を徹底するとともに、発病株は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ IYSVは一部の雑草にも感染するので、ほ場内及び周辺の除草を徹底する。
- ◆ ネギアザミウマの発生を認めたら、プレオフロアブル、リーフガード顆粒水和剤等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

次回の情報は11月下旬にお知らせします。

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

特に発生に注意(11月)②

きゅうり:コナジラミ類(タバココナジラミ:退緑黄化病)

タバコ
コナジラミ※

成虫※



退緑黄化病被害株※

特徴

- ◆ タバココナジラミやオンシツコナジラミが加害する。
- ◆ 葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。
- ◆ 多発すると株全体が弱り、収量も減少する。
- ◆ タバココナジラミがCCYV(ウリ類退緑黄化ウイルス)を伝搬し、キュウリ退緑黄化病が発生する。
- ◆ CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・融合しながら徐々に黄化する。
- ◆ キュウリ退緑黄化病と黄化えそ病は見た目で見分けることは困難である。

防除のポイント

- ◆ 施設開口部に目合い0.4mm以下のネットを展張し、成虫の侵入を阻止する。
- ◆ 施設周辺及び内部の除草を徹底するとともに、感染株は、施設外へ持ち出し処分する。
- ◆ ウイルス病に対する治療方法はないので、ウイルスを媒介するタバココナジラミの防除を徹底する。
- ◆ コナジラミ類の発生を認めたら、アファーム乳剤、グレース乳剤(うり類(未成熟))等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

野菜類:シロイチモジヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ ねぎでの発生が多いが、しゅんぎく、まめ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ ねぎでは葉身内に食入し、薬剤が届きにくくなるので、卵塊の除去及び集団でいる発生初期(若齢幼虫期)に防除を行う。
- ◆ 発生を認めたら、プレオフロアブル(ねぎ、キャベツ、しゅんぎくなど)、グレース乳剤(ねぎ、結球あぶらな科葉菜類、しゅんぎくなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

病害虫発生予察注意報第3号「シロイチモジヨトウ」(令和7年9月2日発出)もご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/2509_r7chuuihou03_shiroichimojiyotou_soshin.pdf

病害虫の発生予報(11月)

作物名	病害虫名	予想発生量(11月)
ねぎ	ネギアザミウマ(えそ条斑病)	多い
きゅうり	べと病	やや少ない～平年並
	うどんこ病	平年並
	褐斑病	やや多い
	アザミウマ類 (ミナミキイロアザミウマ:黄化えそ病)	やや少ない～平年並
	コナジラミ類 (タバココナジラミ:退緑黄化病)	多い
あぶらな科野菜	根こぶ病	平年並
	菌核病	平年並～やや多い
	コナガ	平年並
野菜類	シロイチモジヨトウ	多い
	ハスモンヨトウ	平年並～やや多い
	オオタバコガ	やや多い
	アブラムシ類	やや少ない～平年並
果樹類	果樹カメムシ類	平年並

※予想発生量は、平年値(概ね過去10年の平均)に比べて、「多い・やや多い・並・やや少ない・少ない」の5段階で示しています。

※ねぎは令和5年度より調査開始のため、過去2年のデータを平年値としています。

※予報の根拠は下記ホームページ内の「病害虫発生予察情報」の該当月をご確認ください。

<https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html>

野菜

きゅうり

べと病



被害葉＊

特徴

- ◆ 気温20～24℃で発生が多い。
- ◆ 下位葉に葉脈で囲まれた黄色角形の病斑ができ、上位葉へ拡大する。

防除のポイント

- ◆ 排水を良好にし、過湿を避ける。
- ◆ 施設栽培では換気に注意し、結露を避ける。
- ◆ 被害茎葉を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 肥料切れしないように、肥培管理に注意する。
- ◆ 発生を認めたら、プロポーズ顆粒水和剤、アミスター20フロアブル等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

うどんこ病



被害葉＊

特徴

- ◆ 施設栽培で、日照不足、乾燥時に発生が多い。
- ◆ 昼夜の温度差が大きくなると発生が多い。
- ◆ はじめ株の下位葉に小麦粉をかけたような病斑ができる。しだいに上の葉に広がり、葉面全体が白色の粉を振りかけたようになる。

防除のポイント

- ◆ 施設内の換気を良好にする。
- ◆ 被害葉を除去し、通風を良くする。
- ◆ 発生を認めたら、アフェットフロアブル、トリフミン水和剤等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

褐斑病



被害葉

特徴

- ◆ 高温、多湿の施設栽培で発生が多い。
- ◆ 天井フィルムからの結露水のボタ落ちで発病が助長される。
- ◆ はじめ葉に円形・褐色の小型病斑を生じ、やがて灰褐色の5～10mm程度の不規則な病斑になる。多湿条件では病斑上に黒褐色のカビが生える。

防除のポイント

- ◆ 施設内の換気を良好にし、多湿にならないよう注意する。
- ◆ 被害葉・老化葉は早めに除去する。
- ◆ 発生を認めたら、カンタスドライフロアブル、ニマイバー水和剤等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

アザミウマ類(ミナミキイロアザミウマ:黄化えそ病)



ミナミキイロアザミウマ被害葉※

特徴

- ◆ ミナミキイロアザミウマの発生初期は、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。
- ◆ ミナミキイロアザミウマがMYSV(メロン黄化えそウイルス)を伝搬し、キュウリ黄化えそ病が発生する。
- ◆ MYSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化等の症状を示す。

防除のポイント

- ◆ 施設の開口部を目合い0.8mm以下の赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- ◆ アザミウマ類の発生を認めたら、アフーム乳剤、グレーシア乳剤(うり類(未成熟))等を散布する。
- ◆ 黄化えそ病の発病株はほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。



黄化えそ病被害葉※

あぶらな科野菜

根こぶ病

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

特徴

- ◆ 定植後1ヶ月頃から晴天の日中に葉がしおれるようになり、やがて葉色・生育が悪くなり、激しい場合には枯死する。

防除のポイント

- ◆ あぶらな科野菜の連作を避ける。
- ◆ 土壌水分が多いと発生しやすいので、排水を良好にし、過湿を避ける。
- ◆ 土壌pHが低い(酸性)と発生しやすいため、石灰質資材等を施用し、pH7程度に調整する。
- ◆ 発病株は早めに根ごと除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 前年発生したほ場では、ネビリュウ(キャベツ、ブロッコリー、はくさいなど)やオラクル粉剤(キャベツ、ブロッコリー、はくさいなど)等を土壌混和する。



キャベツの被害株※

菌核病



キャベツの被害株

特徴

- ◆ 暖冬・多雨時に発生が多い。
- ◆ ネズミの糞のような黒い菌核が土中に残って伝染源になる。

防除のポイント

- ◆ 菌核が土中に残って伝染源になるので、発病株は、見つけ次第菌核を落とさないようほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 発生が予想される時期に、ベンレート水和剤(キャベツ、ブロッコリー、はくさいなど)、スクレアフロアブル(キャベツ、ブロッコリー、はくさいなど)等を散布する。
- ◆ 多発ほ場では、菌核病が発生しやすいあぶらな科野菜やレタスなどを連作しない。
- ◆ 水稻との輪作は防除効果がある。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

コナガ



幼虫 ※



成虫 ※

特徴

- ◆ 主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆ 一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆ 発生初期に防除を行う。
- ◆ 発生を認めたら、アフーム乳剤(キャベツ、ブロッコリー、こまつななど)、ディアナSC(キャベツ、ブロッコリー、こまつななど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

野菜類

ハスモンヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ あぶらな科野菜、なす科野菜、さといも等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生初期(若齢幼虫期)に防除を行う。また、卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。
- ◆ 発生を認めたら、アニキ乳剤(キャベツ、なす、さといもなど)、ヨーバルフロアブル(キャベツ、なす、さといもなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

病害虫防除情報「チョウ目害虫に注意！」(令和7年7月9日発行)もご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/2507_r7bojo02_choumoku_soshin.pdf

オオタバコガ



幼虫



卵

特徴

- ◆ 果実や茎などに食入する。食害痕のまわりに虫のフンが確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆ 幼虫の捕殺は、被害軽減効果が大い。また、摘除した茎葉や果実に、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場外へ持ち出し、処分する。
- ◆ 果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、早めに対応を行う。
- ◆ 発生を認めたら、プレバソフフロアブル5(なす、トマト、ミニトマトなど)、ディアナSC(なす、トマト、ミニトマトなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

アブラムシ類



モモアカアブラムシ

特徴

- ◆ 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、コルト顆粒水和剤(はくさい、レタス、ねぎ、キャベツなど)、トランスフォームフロアブル(はくさい、レタス、ねぎ、キャベツ、ほうれんそうなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

果樹類

果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ

特徴

- ◆ チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。
- ◆ ほ場により飛来量が大きく異なる可能性があるため、ほ場内を見まわり発生及び被害状況を確認する。

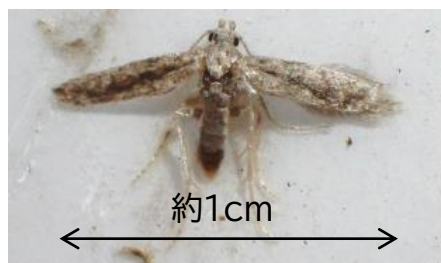
防除のポイント

- ◆ ほ場全体を目合い4mm以下のネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆ 発生を認めたら、カメムシ類に適用のあるスタークル/アルバリン顆粒水溶剤(かんきつ、かきなど)、アディオン乳剤(かんきつ、かきなど)等を散布する。
- ◆ 薄暮期から夜間を中心に活動するため、夕方に薬剤散布を行うと効果的である。
- ◆ スギ林やヒノキ林の隣接ほ場では、被害が多くなる傾向があることから特に飛来状況に留意する。

その他 注意すべき病害虫

野菜:トマト・ミニトマト

トマトキバガ



府内で誘殺された成虫

特徴

- ◆ 寄主植物はトマト・なす・ピーマン・とうがらしなどの主にナス科植物である。成虫は夜行性で、日中は葉の間等に隠れていることが多い。
- ◆ 幼虫が茎葉の内部に潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変する。
- ◆ 果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に直径数mm程度の穴が空くとともに腐敗するため、品質が低下する。

防除のポイント

- ◆ 発生が疑われる場合は、速やかに病害虫防除グループや最寄りの農の普及課、JA に確認する。
- ◆ 施設栽培では、ハウスの開口部に防虫ネットを設置し、侵入を防止する。
- ◆ 発生を認めたら、アファーム乳剤、グレース乳剤等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- ◆ 被害葉や被害果実はほ場に放置せず、速やかに土中に深く埋却するか、ビニール袋などに入れて一定期間密閉して寄生した成幼虫を全て死滅させてから適切に処分する。

「トマトキバガ 生態と防除」(令和6年3月発行)もご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/tomatokibaga_osaka.pdf